

平成30年度 第2回窯業技術研究所運営委員会 会議録

日 時：平成30年12月25日 10時00分から11時00分まで

場 所：瑞浪市産業振興センター 3階中会議室

出席者：委 員 田口典宏（委員長）、塚本哲也（副委員長）、三浦彰治郎、小島史昭、
松崎捷也、加藤精三、和田 孝、足立公子、河口建喜

事務局 鈴木創造（経済部長）、加藤正夫（窯業技術研究所長）、
安齋久嗣（所長補佐兼技術開発係長）、大野万里子（管理係長）

欠席者：委 員 可知節男、水野秀伸

傍聴者：1名

1. 開会

【事務局】

これより、平成30年度第2回窯業技術研究所運営委員会を開催いたします。本日は11名中9名の委員にご出席をいただいております、過半数の出席がありますので、運営委員会規則第4条2項の規定により、会議が成立していることをご報告いたします。

また、本会議は公開で行われ、希望者があった場合は「傍聴規程」により傍聴することができますことになっております。

2. あいさつ

【経済部長】

本日はご多忙のところ、ご出席を賜りありがとうございます。5月の運営委員会の時にご説明した土岐市との試験機関の共同化の検討結果と、窯業技術研究所の設備機器使用料並びに試験試作手数料の見直しの件につきまして委員の皆様からご意見を頂きたくお集まりいただきました。慎重な審議をよろしく願いいたします。

3. 議題

議題（1）土岐市との試験機関の共同化について

資料 土岐市との陶磁器試験研究機関共同化の検討結果について

【議長 田口委員長】

それでは、これより議事を進めてまいります。議題（1）土岐市との試験機関の共同化について、説明をお願いします。

【事務局】

それではご説明させていただきます。資料をご覧ください。

共通の地場産業で、試験研究機関の業務が比較的類似していることなどから、土岐市と共同化の研究を進めてまいりました。

共同化で得られるメリットとしては、業務の効率化と経費の削減、職員配置の適正化、業務の高度化が期待できます。利用者にとっては試験を一箇所で依頼することができ、各種技術講座の内容なども高度化、多様化することが期待できると考えておりました。

一方、デメリットとしては、土岐市という想定でしたので、位置の変更により利用が不便になる、また共同化の形態によっては運営に関する事務量が増加する、瑞浪市に研究機関が無くなるという事で瑞浪の「陶磁器の町」というアイデンティティーに影響する可能性があるということを考えておりました。

資料の2枚目をご覧ください。5月16日から土岐市と研究会をのべ4回行いました。2市の業務内容や施設、機器の調査などを行い、共同化を行った場合に、どのような事業ができるのかを検討しました。

次に共同化の形式として本市は地方自治法の「協議会方式」を提案しました。2市で土岐の試験場に協議会を設置し、独立した組織としてそれぞれの市から職員を派遣し事業を行うというものです。スケールメリットとして経費削減効果が1100万円程あり、瑞浪市にも土岐市にも経費の削減が可能になると考えました。

土岐市は試験場能力に余力があり、「瑞浪市からの試験・試作を受諾するので、それに対して瑞浪市は土岐市へ委託料を払う」「職員の受け入れはできない」という提案でした。

また、窯業技術研究所の利用者の意見を聞く会を6月25日と10月23日（市長出席）に開催しました。

検討の結果、土岐市からの提案については窯業技術研究所を単に廃止するという事であって業界からの理解が得がたいという事、当初目的としたスケールメリットによる業務の高度化が果たせないこと、職員の身分が担保されないということから瑞浪市としてはその条件では受け入れられないという事で、調整は出来ないことから共同化は見送りという判断をさせて頂きました。

以上、土岐市との試験研究機関の共同化についての報告とさせていただきます。

【議長】

このことについて、ご質問等あればお願いします。

無いようですので、次の議題に進めます。

議題（2）設備機器使用料の見直しについて

資料1-1

資料1-2

【議長】

議題（2）設備機器使用料の見直しについて事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは説明いたします。

次年度以降、職員が1名減る事もあり、研究所の事業内容の見直しをしようということで考えた案です。

「試験、検査及び分析」の機器は使用状況を見ますと平成28年度に1回、粒度分析機の使用があったのみで、平成24年度から平成29年度まで使用が無く、老朽化していることもあり平成31年度より貸し出しを廃止したいと考えております。また、土岐市、多治見市、県セラ研のどの機関も試験機器の貸し出しは行っておりません。

「製作機器」については、工芸用ロクロ、原型用ロクロ、その他製作機器を、「焼成炉」については平成24年度から利用が無いガス炉を老朽化していることもあり廃止させていただきます。

「焼成炉」の電気炉については20kW、10kW、5kWとありますが、土岐市、多

治見市の金額に近い使用料の設定に見直しさせていただきました。以上です。

【議長】

このことについて、ご質問、ご意見等あればお願いします。

ご意見等が無いようですので、次に進めます。

議題（３）依頼試験・試作手数料の見直しについて

資料２－１

・資料２－２

【議長】

議題（３）依頼試験・試作手数料の見直しについて事務局より説明をお願いします。

【事務局】

依頼試験・試作手数料の見直しについて、資料２－１をご覧ください。実態として利用が無い、または市内企業の利用が少ない項目を見直しました。

依頼試験の見直し案として、粒度分析、鉛・カドミウム溶出試験、スポーリング試験の３項目にさせて頂きたいと考えております。

手数料ですが、粒度分析は２４００円に、鉛・カドミウム溶出試験は６００円に、スポーリング試験は１５００円にして、土岐市、多治見市に合わせるような金額にしました。

依頼試作については、土岐市は１時間あたり３０００円、多治見市は１時間あたり３０８０円の手数料設定となっておりますので、瑞浪も同じ金額で、１時間あたり３０００円に致しました。以上です。

【議長】

このことについて、何かご質問やご意見等あればお願いします。

【委員】

これくらい値上げすると、去年の実績に比べて収入はだいぶ増えるのか。

【事務局】

試験の方で試算しますと、それほど増えることにはなりません。今回の見直しの主な目的は業務を絞って、できるだけ試作デザインの方に注力したいという事がひとつの目的ですので、実際に依頼が無い項目は廃止する予定です。また衝撃強度試験のように時間がかかる割りには、依頼が瑞浪市以外の業者から多いものについては、今回見直しをしたというような内容になっております。

【委員】

衝撃強度試験の試験機器は使用できないのか。

【事務局】

導入して１７年ほど使用しており老朽化していて、部品交換等に１００万円ほどかかります。依頼はほとんど市外からで、測定にすごく時間が掛かります。

【事務局】

補足になりますが、今回の見直しについては運営委員会で審議していただいた後、市役所庁内での検討を経て、３月議会に上程したいと考えています。施行については平成３１年４月１日から新しい料金体制で運営していきたいと考えております。

【委員】

依頼試験が市外から思った以上に依頼があるが、市外から依頼される理由は手数料が安いからか、他の機関だと時間が掛かるが瑞浪だと早く結果が出るからなのか。

【事務局】

「いくらですか」とよく値段を聞かれるので、料金が安いからということもありますが、試験対応が早いという理由もあります。衝撃強度試験については、県セラ研と瑞浪市しか実施していないのですが、値段が県セラ研は高いので瑞浪に依頼に来るようです。

【委員】

今回見直しをして料金を上げて、土岐市と比べ、まだ全体的に安いので、いっそ土岐市と同等の金額でもいいと思う。安く設定した事には何か理由がありますか。

【事務局】

考え方として、今までの市外の料金くらいを上限にしてはどうかということで提案しました。土岐市と同じ金額と言うのもひとつの考え方かなと思います。

【委員】

全体的に他市と比べて手数料の金額が低いという印象ではあります。

【委員】

CAD・CAM試作についてですが、単純にかかった時間での計算だと設備が老朽化していると当然時間が掛かって料金が割高になるのではないのでしょうか。試作デザインの方にこれから力を入れていくということであれば、最新の機械を導入することも必要ではありませんか。料金だけを値上げするということでは無しに。

【事務局】

来年度は新しく機械を入れ替える計画でおります。

【委員】

衝撃強度試験は廃止ということですが、数値だけ知りたい時にはどうでしょうか。

【事務局】

結果通知書は出せなくなりますが、商品開発や製品トラブルがあった時に相談して頂ければ対応します。機器を廃棄するというものではありません。

【委員】

衝撃強度試験については市外からの依頼が180点で市内が24点だが、安いからなのかもしれない。これこそ値上げして継続してもいいのではないか。

【事務局】

市外からの180点の中でマグカップの取っ手の試験が多いです。取っ手の衝撃強度試験は試験規格がありませんので、規格外という対応をしております。県セラ研は取っ手の試験をしていないので、瑞浪に依頼に来ます。

【委員】

測定時間が掛かるということも衝撃強度試験を廃止する理由のひとつか。

【事務局】

市内企業からの依頼が多い試験は今回継続することにしております。衝撃強度試験に関しては県セラ研で対応して頂くようお願いをしております。

【委員】

実際に試験をするとすると、機械の原価償却や実際に掛かる時間の人件費など含めて、実際どれくらいの金額になるのか。部品交換等に100万円くらいかかるとか報告があったが、どうしても必要ということであれば、それなりの金額を頂いて継続してはどうか。

【事務局】

機器は600万円します。耐用年数が10年として、1年あたり60万円になります。約400点の試験件数だとすると、原価償却だけで1件あたり1500円になります。試験に掛かる時間等の人件費を考慮すると最低でも3000円くらいの手数料が必要になります。

【委員】

県セラ研は時間が掛かるので、使う側としては料金が高くなっても、瑞浪の方が早いということもあり値上げしてでも継続していただきたい。

【事務局】

開発の相談として試験機器が使用できる限り今後も対応していきますが、試験結果書が必要という事でしょうか。

【委員】

納品先によっては、全ての新商品に試験結果書の添付が求められている。

【事務局】

継続していくに当たっては、人員が限られている事が一番の課題です。試験機器も買い替えないと信頼できる測定結果を出せない状況です。老朽化により修理の部品もあるかどうかということと、また新しい機器も購入できないという状況にあります。

【委員】

粒度分析や鉛・カドミウム溶出試験、スポーリング試験などの試験をすべて土岐市にお願いしてはどうか。瑞浪は衝撃強度試験だけにして。

【事務局】

スポーリング試験や鉛カドミウム溶出試験は廃止すると困る市内企業が多い。

【委員】

衝撃強度試験を継続するとなると、試験機の買い替えの予算がつくか。

【事務局】

機械がすぐに壊れるわけではないが、年間24点程度の市内からの依頼数に対し、それだけの設備投資をして続けていくことは考えなくてはいけないと思います。

問題は人員の問題で手間がかかる。このまま試験を継続ということであれば、人をやり繰りしながら手数料を値上げさせて頂いてということになります。市内4社で24点だけしか利用されていない現状ですので難しいです。

【委員】

どうしても機械の問題があつて、試験が出来なくなったら止めにするか、買い換えてもらうか。買い換えても残してほしい試験ではある。

【事務局】

1年に24点しか市内企業からの依頼がないので、相談業務のなかで数値を提示するだけで良いのではないかと思います。試験を残すと市外から依頼を受けることになる。業務の相談の中で数値を出すということではいかがでしょうか。

【委員】

事務局が言われたとおり相談業務での対応でいいのではないかと。

【委員】

正式な結果書でなくて良いので対応して頂きたい。

【委員】

この試験に関しては市外の依頼は受け付けないことにしてはどうか。

【委員】

そうすると、土岐市も瑞浪の企業からの依頼は受け付けないということに発展してしまう。

【委員】

相談対応ということは正式な規格の試験では無いということですか。

【事務局】

県セラ研なども相談業務として対応して数値とか出しています。それと同じように、年間24点ですので、ご相談として受けながら数値を出すということで対応していきます。

【議長】

その他にご意見はありますか。

【事務局】

確認となりますが、粒度分析、スポーリング試験については土岐市と同じ料金でいいのではないかという事、衝撃強度試験については、市内の企業に関しましては相談業務の中で対応させていただくということで、依頼試験としては廃止する。試験結果書は出せませんが、相談業務の中で試験の数値などを提示していくというようにします。

【議長】

ご意見はありますか。無いようですので、それではこれで議事を終了とします。

【事務局】

以上をもちまして第2回瑞浪市窯業技術研究所運営委員会を終了させていただきます。